

計画区域、対象とする交通等

■ 計画区域

本計画の対象となる区域は、綾部市、南丹市、京丹波町、福知山市の3市1町からなる地域とし、中でも、ＪＲ山陰本線の園部駅～綾部駅間および園福線・三和線に関連する区域とします。

- 綾部市** 山家地区及び上林地区
- 南丹市** 船岡駅以北の地域(旧日吉町、旧美山町、旧園部町の旧川辺小学校区)
- 京丹波町** 全域
- 福知山市** 京都交通三和線沿線地域(昭和地区、惇明地区、大正地区、雀部地区、下六人部地区、上六人部地区、三和町)

■ 対象とする交通

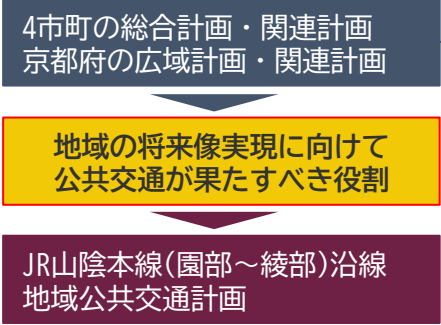
- 鉄 道：JR山陰本線（園部～綾部間）
- バ ス：中京交通（園福線）、京都交通（三和線）、あやバス（上林線、於見市野瀬線）、南丹市営バス（計画区域内を運行する系統）、ぐるりんバス（計画区域内を運行する系統）、京丹波町営バス（全系統）
- 個別輸送：タクシー、スクールバス、デマンドバス・タクシー（南丹市、京丹波町）、交通空白地・福祉有償運送

■ 計画期間

おおそ10年後（令和18年度）の将来を見据えつつ、令和9年度から13年度までの5年間の計画とします。

■ 計画の位置づけ

本計画は、4市町や京都府の総合計画やまちづくりに関する計画と連携・整合を図り、地域の公共交通のマスタープランとして位置づけます。



- <各計画の施策政策の方向性>
- ・ 定住促進、交流人口の増大
 - ・ 出産・子育て環境の充実
 - ・ 産業の創生や基盤強化による地元雇用の確保
 - ・ 人・地域の交流を支える拠点・ネットワークづくり
 - ・ 観光交流の推進
 - ・ 暮らしの安全と安心の確保
 - ・ 次代を担う人材育成
 - ・ コンパクトシティ、スマートシティ

計画実施のための推進体制

目標の実現、施策の継続的な実施に向けて、4市町の関係者及び区域の公共交通事業者、住民など、様々な関係者が連携し、総合的な取組として進めます。

<ＪＲ山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会の役割>
計画の評価、検証、見直し等を、主体となって実行します。

<各市町の役割>
各市町の地域公共交通会議で事業の実施状況や評価等を協議し、協議事項等をＪＲ山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会へ共有します。

	前年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	次年度
協議会の年間スケジュール		事業実施												次年度事業検討
		前年度事業評価・検証												
					事業見直し									
協議会開催					●						●			

※最終年度（R13年度）のみ7月以降に計画の見直しを実施

毎年繰り返す

安全安心で豊かな暮らしの基盤となり、交流と定住を促進する
「森の京都『おでかけ』システム」の実現を目指して

（仮）ＪＲ山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通計画2031 概要版（中間案）

はじめに

京都府と綾部市、南丹市、京丹波町は、令和4年3月に「ＪＲ山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通計画」を策定し、鉄道と幹線バスを軸とする地域公共交通の再構築（地域公共交通のリ・デザイン）に取り組んできました。

しかし、人口減少や担い手不足等、公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しており、持続可能な公共交通サービスを実現するためには、今後の公共交通のあり方を再定義する必要があります。

本計画は、これまでの地域公共交通計画での施策の実施結果を踏まえ、まちづくり等と連携した公共交通の次の5年間のマスタープランとなるものです。

5年後に計画が達成された地域の姿



地域の課題点（案）

地域公共交通の課題（案）

基本方針と施策（案）

都市や人口等

人口減少とともに、公共交通の利用者も減少
公共交通が不便な地域の後期高齢者数が増加
公共施設や生活関連施設への交通手段は、ほとんどが自動車利用

公共交通

公共交通利用者数減少やドライバー不足により公共交通のサービスレベルの維持・存続が困難
深刻な公共交通の担い手不足（ドライバー等）
鉄道駅の交通結節機能が弱い
園部駅～綾部駅間の鉄道のサービスレベルは現状では高くできない
公共交通の運行時間帯が短く、長距離通勤や子どもの部活や習い事ができないダイヤ設定
家族等の送迎が定着し、公共交通の意識が低い
園福線ダイヤは地域外からの通勤通学者に不便
公共交通での買物や通院が困難なダイヤ設定
公共交通の情報不足、周知不足

観光

観光地への公共交通サービスが弱く、情報発信も不十分で、公共交通を使った観光が困難
公共交通の情報発信方法や見せ方に改善余地

利用者・須知高校生

・早朝・帰宅時間帯の運行がなく、家族等の送迎に頼っている
・鉄道とバスの乗り継ぎが悪い
改善等のニーズ：
・駅の待合環境の改善
・乗り継ぎ時間の余裕
・帰宅時間帯等での園福線の増便 等

地域からの声

交通事業者・地元関係者等

行政や沿線地域と連携した利用促進
バス・タクシーの深刻な運転者不足
既存交通とデマンドタクシー等との連携
公共交通と連携した高齢者の外出支援
高齢者への公共交通の利用方法の周知
通院や買い物に往復利用できるダイヤ
観光客向け案内や公共交通情報発信の充実

日常生活交通に関する課題

JR山陰本線や園福線・三和線の基幹的な公共交通サービスの維持・確保・利便性向上（圏域外からの通勤通学、帰宅時への対応含む）

地域内や市町間を相互移動ができる運行形態にとらわれないおでかけ手段の確保

住民ドライバーを含む地域公共交通の担い手の長期的な確保

自動車の運転が困難になる高齢者の増加を見据えた交通手段の確保や交通環境の充実、情報発信の強化

交通結節機能の強化や駅を中心としたにぎわいの創出等、子どもと一緒にの方や高齢者にも公共交通を利用してもらうための拠点づくり

公共交通利用への転換と外出機会の拡大

観光・交流交通に関する課題

周遊観光にも適用できる、公共交通の総合的なサービスの提供や既存移動サービスの連携強化

観光・交流施策と連携した公共交通利用の情報発信

初めて訪れる観光客や外国人観光客にもわかりやすい案内方法等、利便性の向上

基本方針①

① 地域公共交通の重要性に関する認識をあらゆる主体・地域で共有し、協働して支え育む活動を活発化することで、地域公共交通システムを持続可能とする

数値目標 J R 山陰本線（園部～綾部）の年間利用者数／利用者あたりの公的資金投入額／バス路線の収支率

①-1	公共交通利用への自発的な転換・定着の促進	①-2	地域旅客運送サービス継続事業
①-3	沿線住民など関係者間の協働による公共交通サービス改善の継続的な実施		
①-4	バス・タクシー運転手の人材確保		
①-5	交通事業者と連携した鉄道の運行やサービスレベルの維持・改善		

基本方針②

② J R 山陰本線（園部～綾部）の複線化を視野に、公共交通全体としての機能・連携を強化することで、鉄道利用者の増加を図る

数値目標 人口あたりの年間公共交通利用者数／鉄道と主要バス路線や、園福線と他バス路線との接続便数

②-1	区域内をシームレスに移動できる仕組みづくり		
②-2	ICカードシステム等のキャッシュレス化の拡充		
②-3	公共交通間の乗継利便性向上		

基本方針③

③ 自家用車に頼らなくても「おでかけ」したくなる、「健幸」に暮らせ、若者も魅力を感じる地域を目指す

数値目標 人口あたり年間鉄道定期利用者数／年間園福線通学定期利用者数／高校生大学生通学費補助件数

③-1	広域的な通勤・通学に利用できる移動手段の導入		
③-2	高齢者の買い物や通院等に便利なダイヤの設定		
③-3	公共交通の空白地や不便な地域での新たな移動手段の導入や支援及び高齢者が積極的に外出したくなる機会の創出		
③-4	郵便・宅配・福祉有償運送等、様々な主体の連携による移動手段の確保		
③-5	子育て世代や高校生・大学生、免許返納者に対する公共交通利用支援		

基本方針④

④ 鉄道駅・主要バス停の乗継利便性や待合快適性を高め、安心感があり立ち寄りたくなる拠点へと変え、地域内外の交流を促進する

数値目標 新たに待合快適性が向上した鉄道駅・バス停の数

④-1	子どもと一緒にでも安心して利用できる拠点の整備		
④-2	快適な待合環境の整備		

基本方針⑤

⑤ 案内強化やMaaS等によって公共交通を分かりやすくし、一体化を進めることで使いやすさを向上させ、特に観光での移動を便利で快適にする

数値目標 年間観光入込客数

⑤-1	統一したデザイン等による見やすく、わかりやすい観光情報・公共交通情報の提供		
⑤-2	訪日外国人向けの多言語表記化	⑤-3	観光に資するアクセス交通の充実